

持続可能なよりよい社会を目指して

エスディー・ジーズ

SDGs できることから始めよう

問い合わせ 政策課 ☎229-3101 FAX229-3330

・・・SDGsは世界の共通目標・・・

最近、テレビや新聞などでSDGsという言葉やロゴマークを見たり聞いたりする機会が多くなりました。

SDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている、2030年までに達成を目指す国際社会全体の目標です。持続可能な世界を実現する

ために、貧困、教育、ジェンダー、エネルギー、生産・消費、気候変動などの17項目について2030年にあるべき姿を示していて、「誰一人取り残さない(Leave No One Behind)」を理念としています。

世界中の全ての国が共通して取り組み、日本でも持続可能なよりよい社会の実現に向けて、自治体や企業などで積極的に取り組みを進めています。

17の目標を示した
世界共通の
ロゴマーク

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



・・・コロナ禍におけるSDGs・・・

いまだ新型コロナウイルス感染症は収束に至らず、私たちの日常生活は、長期にわたり大きな影響を受けています。このような中、「SDGsどころではない」と感じることもあるかもしれませんが、コロナ対策として行政が行っている施策や、皆さん一人一人が気を付けていることの中にも、SDGsの達成につながる取り組みがあります。また、コロナ禍によってその大切さが認識され、大きく取り組みが進んだものもあります。

例えば、「GIGAスクール構想」実現に向けた全児童生徒への1人1台の端末の配備は「目標4:質の高い教育をみんなに」に、新型コロナウイルス感染症に関して偏見や差別をなくすことは「目標10:人や国の不平等をなくそう」に関係しています。

コロナ対策以外でも、身近な取り組みとして、レジ

袋を使わないようマイバッグを持ち歩くことが日常的になっているほか、ごみ拾いをしながらジョギングをする「プロギング」というイベントも各地で行われるようになりました。これらは「目標12:つくる責任、つかう責任」や「目標14:海の豊かさを守ろう」などに関係しています。

コロナ対策もSDGsの取り組みも、一人一人の日々の心掛けの積み重ねが大きな成果につながります。コロナ禍でも持続可能なよりよいまちづくりを進めるために、そして、感染症が収まったときによりよい日常を迎えられるように、今できることから始めましょう。

SDGsをもっと詳しく知りたい人は
外務省ホームページへ

